

[選択項目] 年度: 1991~2023 年 大学: 埼玉大

0.1  $D$  を  $xy$  平面上の領域とすると、曲面  $z = f(x, y)$  ( $(x, y) \in D$ ) の面積は

$$\iint_D \sqrt{\left(\frac{\partial f}{\partial x}\right)^2 + \left(\frac{\partial f}{\partial y}\right)^2 + 1} \, dx dy$$

で表される。このことを用いて半径  $R$  の球の表面積の公式を導け。

(埼玉大 1998) (m19981401)

0.2 (1)  $n$  次正方行列  $A$  について、 $A$  の固有値、固有ベクトルの定義を述べよ。

(2)  $B$  は 3 行 3 列の行列で、次の (a)(b)(c) を満たしている。

(a)  $B$  の固有値は 1 と 2 である。

(b)  $B$  の 1 に対する固有ベクトルとして  $\begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ -2 \end{pmatrix}$  がとれる。

(c)  $B$  の 2 に対する固有ベクトルとして  $\begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}$ ,  $\begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ -3 \end{pmatrix}$  がとれる。

上の条件 (a)(b)(c) を満たす行列  $B$  を求めよ。

(埼玉大 1998) (m19981402)

0.3 次の極限を求めよ。

$$\lim_{x \rightarrow 0^+} x \sqrt{-\log x}$$

(埼玉大 1999) (m19991401)

0.4  $a, b, c > 0$  とする。

$$\left(\frac{x}{a}\right)^2 + \left(\frac{y}{b}\right)^2 + \left(\frac{z}{c}\right)^2 = 1$$

をみたす  $(x, y, z)$  の組で

$$w = x + y + z$$

が極値をとる  $(x, y, z)$  を求めよ。

(埼玉大 1999) (m19991402)

0.5  $a$  を正の実数とし、次の不等式で定義された領域を  $D$  であらわす。

$$\sqrt{x} + \sqrt{y} \leq \sqrt{a}, \quad x \geq 0, y \geq 0$$

このとき、次の値を求めよ。

$$\iint_D dx dy, \quad \iint_D x \, dx dy$$

(埼玉大 1999) (m19991403)

0.6 同じ係数を持つ 3 つの連立方程式

$$(1) \begin{cases} a_1x + b_1y + c_1z = 0 \\ a_2x + b_2y + c_2z = 2 \\ a_3x + b_3y + c_3z = 0 \end{cases} \quad (2) \begin{cases} a_1x + b_1y + c_1z = 1 \\ a_2x + b_2y + c_2z = 0 \\ a_3x + b_3y + c_3z = 0 \end{cases} \quad (3) \begin{cases} a_1x + b_1y + c_1z = 0 \\ a_2x + b_2y + c_2z = 0 \\ a_3x + b_3y + c_3z = 3 \end{cases}$$

において、(1) の解は  $x = 2, y = 1, z = -2$ , (2) の解は  $x = -1, y = 2, z = 4$ , (3) の解は  $x = -3, y = 0, z = 5$  であるという。このとき、 $a_1, b_1, c_1, a_2, b_2, c_2, a_3, b_3, c_3$  を定めよ。

(埼玉大 1999) (m19991404)

**0.7**  $A$  を  $m \times n$  の実行列とする.  $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix}$  を未知数とする一次方程式

$$A\mathbf{x} = \mathbf{o} \tag{i}$$

を考える.

- (1) 方程式 (i) の解全体は,  $\mathbf{R}^n$  の線形部分空間をなすことを示せ.
- (2) (1) の線形部分空間の次元と,  $A$  の階数 ( $\text{rank } A$ ) の関係式を記せ. (証明不要)
- (3)  $B$  も  $m \times n$  の実行列とし, 一次方程式

$$B\mathbf{x} = \mathbf{o} \tag{ii}$$

を考える.  $\text{rank}A + \text{rank}B < n$  が成り立つとき, 方程式 (i) と方程式 (ii) に  $\mathbf{o}$  以外の共有解が存在することを示せ.

(埼玉大 1999) (m19991405)

**0.8** 閉区間  $[0, 2\pi]$  上の関数

$$f(x) = \sqrt{1 + a^2 + b^2 - 2a \cos x - 2b \sin x}$$

を考える. ただし,  $a, b$  は正の定数とする.

- (1)  $f(x)$  の最大値  $M$  と最小値  $m$  を求めよ.
- (2) 関係式

$$\begin{cases} a = 1 + \frac{\cos \theta}{\sqrt{2}} \\ b = 1 + \frac{\sin \theta}{\sqrt{2}} \end{cases} \quad (0 \leq \theta < 2\pi)$$

があるとき, 積  $Mm$  の最大値を求めよ.

(埼玉大 2000) (m20001401)

**0.9**  $f(x) = \frac{1}{(1 + x^2 + y^2)^2}$  とする.

- (1) 正数  $R$  に対し, 次が成り立つことを示せ.

$$\int_0^R \left( \int_0^{\sqrt{R^2 - y^2}} f(x, y) dx \right) dy \leq \int_0^R \left( \int_0^R f(x, y) dx \right) dy \leq \int_0^{\sqrt{2}R} \left( \int_0^{\sqrt{2R^2 - y^2}} f(x, y) dx \right) dy$$

- (2)  $\lim_{R \rightarrow \infty} \int_0^R \left( \int_0^R f(x, y) dx \right) dy$  の値を求めよ.

(埼玉大 2000) (m20001402)

**0.10** 3つの空間ベクトル

$$\begin{pmatrix} 1 \\ 2a \\ 2 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 2a \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ a \\ 1 \end{pmatrix}$$

が一次従属 (線形従属) であるような  $a$  を求めよ.

(埼玉大 2000) (m20001403)

**0.11** 実数を成分とする  $m$  行  $n$  列の行列  $A$  の第  $i$  行第  $j$  列成分を  $a_{ij}$  で表す.

- (1)  $A$  の転置行列を  ${}^tA$  とするとき、行列の積  ${}^tAA$  の第  $i$  行第  $j$  列成分を求めよ。  
 (2)  ${}^tAA$  の対角成分のすべての和が 0 であるとき、もとの行列  $A$  はどんな行列か決定せよ。  
 (埼玉大 2000) (m20001404)

**0.12** 次の関数の導関数を求めさない。

- (1)  $y = \sin^{-1} x$  ( $y = \arcsin x$  を意味する)  
 (2)  $y = x^{\sin x}$   
 (埼玉大 2001) (m20011401)

**0.13** 周の長さ  $l$  が一定の扇形のうちで、面積が最大になる場合の中心角  $x$  を求めなさい。  
 (埼玉大 2001) (m20011402)

**0.14**  $y = \tan^{-1} x^2$  について、次の問に答えよ。  
 (1) グラフの概形を描け。  
 (2)  $x = 0$  における 2 次の微分係数  $y''(0)$  を求めよ。  
 (埼玉大 2001) (m20011403)

**0.15** 次の不定積分を求めなさい。  
 (1)  $\int \frac{x^3 - 3x^2 - 2x}{x^2 - 4x + 3} dx$       (2)  $\int \frac{1}{\sqrt{4-x^2}} dx$   
 (2)  $\int (2x+1) \ln x dx$   
 (埼玉大 2001) (m20011404)

**0.16** (1) 次の等式を満たす実数  $a, b, c, d$  を求めよ。  $\frac{1}{x^4 + 4} = \frac{ax + b}{x^2 - 2x + 2} + \frac{cx + d}{x^2 + 2x + 2}$   
 (2) 不定積分  $\int \frac{dx}{x^4 + 4}$  を求めよ。  
 (埼玉大 2001) (m20011405)

**0.17** 次のベクトルについて、以下の問に答えよ。  
 $\vec{PA} = \mathbf{a} = (2, 1, 1), \vec{PB} = \mathbf{b} = (1, 2, 1), \vec{PC} = \mathbf{c} = (1, 1, 2)$   
 (1)  $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b}$  を求めなさい。      (2)  $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$  を求めなさい。  
 (2)  $PA, PB, PC$  で張られた平行六面体の体積を求めなさい。  
 (埼玉大 2001) (m20011406)

**0.18** 行列  $A = \begin{bmatrix} 0 & 1 & 0 & 1 \\ 1 & 0 & a & 1 \\ 0 & a & 1 & 0 \\ a & 1 & 0 & -1 \end{bmatrix}$  について以下の問いに答えよ。  
 (1)  $\text{rank } A = 3$  となる  $a$  の実数値を求めなさい。  
 (2)  $a = 2$  のとき、 $A$  の行列式を求めなさい。  
 (3)  $a = 1$  のとき、 $A$  の逆行列を求めなさい。  
 (埼玉大 2001) (m20011407)

0.19 次の4つの行列  $A, B, C, D$  を考える.

$$A = \begin{pmatrix} 3 & 5 & 6 & 7 \\ 2 & 1 & 8 & 9 \\ 0 & 0 & 3 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 2 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 2 & 3 \\ 0 & 0 & -1 & 1 \end{pmatrix}, \quad C = \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 1 & 2 \\ 0 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}, \quad D = \begin{pmatrix} 0 & 0 \\ 1 & 1 \\ 0 & 1 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列  $A, B, AB$  の行列式を求めよ.  
 (2) 行列  $C + D$  の階数を求めよ.

(埼玉大 2001) (m20011408)

0.20  $\mathbb{R}^3$  のベクトル

$$e_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad e_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad e_3 = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

と線形写像  $f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^3$  を考え,  $a_i = f(e_i)$  ( $1 \leq i \leq 3$ ) とおく.

このとき, 次の (1), (2) は互いに同値であることを示せ.

- (1) ベクトル  $a_1, a_2, a_3$  は一次独立である.  
 (2)  $f$  は逆写像  $g: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^3$  をもつ.

(埼玉大 2001) (m20011409)

0.21 実数  $\theta$  に対して  $f(x) = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{\sin n\theta}{n} x^n$  とおく.

(1) 右辺の級数は  $|x| < 1$  で収束することを示せ.

(2)  $f'(x) = \frac{\sin \theta}{1 - 2x \cos \theta + x^2}$  を示せ. [ヒント:  $\sin t = \frac{1}{2i}(e^{it} - e^{-it})$ ]

(埼玉大 2002) (m20021401)

0.22  $n$  は自然数とする. 正の定数  $a$  に対して

$$D = \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid (x - a)^2 + y^2 \leq a^2, y \geq 0\}$$

とおく. このとき  $\iint_D x^n y \, dx dy$  を求めよ.

(埼玉大 2002) (m20021402)

0.23  $\mathbb{R}^n$  のベクトル  $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix}, \mathbf{y} = \begin{pmatrix} y_1 \\ \vdots \\ y_n \end{pmatrix}$  に対して内積  $(\mathbf{x}, \mathbf{y})$  を次のように定義する.

$$(\mathbf{x}, \mathbf{y}) = \sum_{i=1}^n x_i y_i$$

さらに,  $\mathbf{x}$  の長さを  $\|\mathbf{x}\| = \sqrt{(\mathbf{x}, \mathbf{x})}$  と定義する.

次の (1), (2), (3) に答えよ.

- (1)  $\mathbf{x}, \mathbf{y} \in \mathbb{R}^n$  に対して不等式  $|(\mathbf{x}, \mathbf{y})| \leq \|\mathbf{x}\| \cdot \|\mathbf{y}\|$  が成り立つことを証明せよ.  
 (2)  $\mathbf{x}, \mathbf{y} \in \mathbb{R}^n$  に対して不等式  $\|\mathbf{x} + \mathbf{y}\| \leq \|\mathbf{x}\| + \|\mathbf{y}\|$  が成り立つことを証明せよ.  
 (3) 上の (1), (2) において等号が成立するための必要十分条件を求めよ.

(埼玉大 2002) (m20021403)

0.24  $n$  次正方行列  $A$  が次のように与えられているとする。ただし、 $n \geq 2$  とする。

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 0 & \cdots & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & \cdots & 0 & 1 & 0 \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots & \vdots & \vdots \\ 0 & 0 & \ddots & \ddots & \vdots & \vdots \\ 0 & 1 & 0 & \cdots & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 0 & \cdots & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

このとき、 $A = LU$  となる下三角行列  $L$ 、上三角行列  $U$  は存在しないことを証明せよ。

(埼玉大 2002) (m20021404)

0.25 次の関数を微分しなさい。  $\operatorname{sech}^{-1}x$  ( $0 < x < 1$ )

(埼玉大 2003) (m20031401)

0.26 実数  $\alpha$  に対し、 $f(x) = \begin{cases} 0 & (x \leq 0) \\ x^\alpha \sin \frac{1}{x} & (x > 0) \end{cases}$  とおく。

(1)  $\alpha > 1$  のとき、 $f(x)$  は  $-\infty < x < \infty$  で微分可能であることを示せ。

(2)  $\alpha \leq 1$  のとき、 $f(x)$  は  $x = 0$  で微分可能でないことを示せ。

(3)  $\alpha > 1$  のとき、 $f'(x)$  が  $-\infty < x < \infty$  で連続となる  $\alpha$  の範囲を求めよ。

(埼玉大 2003) (m20031402)

0.27 曲線  $y = \frac{1}{4}(e^{2x} + e^{-2x})$  ( $0 \leq x \leq 1$ ) の長さ  $L$  を求めなさい。

(埼玉大 2003) (m20031403)

0.28  $a > 0$  とするとき、 $\int_0^\infty e^{-ax} \sin x dx$  を求めよ。

(埼玉大 2003) (m20031404)

0.29  $\cos 46^\circ$  の近似値を有効数字 3 桁の範囲において求めなさい。ただし、 $\frac{\pi}{180} = 0.01745 \dots$ ,  $\cos 45^\circ = \frac{\sqrt{2}}{2}$  である。

(埼玉大 2003) (m20031405)

0.30 以下の問いに答えなさい。ただし、 $y' = \frac{dy}{dx}$ ,  $y'' = \frac{d^2y}{dx^2}$ ,  $D = \frac{d}{dt}$  である。

(1) 次の 1 階微分方程式の一般解を求めなさい。  $2xyy' = x^2 + y^2$

(2) 次の 2 階微分方程式の一般解を求めなさい。  $y'' - 7y' + 10y = 6x + 8e^{2x}$

(3) 次の連立微分方程式の一般解を求めなさい。  $\begin{cases} Dx = 4x - y \\ Dy = x + 2y \end{cases}$

(埼玉大 2003) (m20031406)

0.31  $E$  を 3 次単位行列とし、

$$A = \begin{pmatrix} 6 & 1 & 1 \\ -6 & 1 & -2 \\ -3 & -1 & 2 \end{pmatrix}$$

とおく。整数  $n \geq 1$  に対し、 $A^n = 3^{n-1}(nA - 3(n-1)E)$  であることを証明せよ。

(埼玉大 2003) (m20031407)

0.32 実数  $a, b, c, d$  が

$$\begin{vmatrix} 1 & 2 & -1 & a \\ 1 & 1 & -3 & b \\ -1 & 0 & 1 & c \\ 0 & -1 & 1 & d \end{vmatrix} = 0$$

を満たすための必要十分条件は  $a + 2b + 3c + 4d = 0$  であることを示せ.

(埼玉大 2003) (m20031408)

0.33 行列  $A = \begin{pmatrix} -1 & -1 & -1 \\ 4 & -3 & -4 \\ -4 & 1 & 2 \end{pmatrix}$  について、以下の問いに答えよ.

- (1) 行列  $A$  の逆行列を求めなさい.  
 (2) 次の連立 1 次方程式の解  $x, y, z$  を (1) の結果を用いて求めなさい.

$$\begin{cases} -x - y - z = 3 \\ 4x - 3y - 4z = 2 \\ -4x + y + 2z = 2 \end{cases}$$

- (3) 行列  $A$  の固有値, 固有ベクトルを求めなさい.

(埼玉大 2003) (m20031409)

0.34 (1) 次の関数を微分せよ.

$$[\sin^{-1}(2x)]^3 \quad \left( |x| < \frac{1}{2} \right)$$

ただし,  $\sin^{-1}()$  は逆正弦関数の主値をとるものとする.

- (2) 次の極限値を求めよ.

$$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{a^x - b^{2x}}{(a+b)x} \quad (a > 0, b > 0, a \neq b)$$

(埼玉大 2004) (m20041401)

0.35  $f(x) = \frac{3e^{2x} + 4 \sin x}{2e^{2x} + e^{-x}}$  とおく.

- (1)  $\lim_{x \rightarrow \infty} f(x)$  を求めよ. (2)  $\lim_{n \rightarrow \infty} \int_n^{n+1} f(x) dx$  を求めよ.

(埼玉大 2004) (m20041402)

0.36 次の積分を求めよ.

$$\int \frac{x+1}{(2x^2+4x-7)^n} dx$$

(埼玉大 2004) (m20041403)

0.37  $f(x, y)$  は何回でも偏微分できる関数で,  $\frac{\partial f}{\partial y}(x, y) \neq 0$  とする.  $f(x, y) = 0$  により定まる陰関数を  $y = \varphi(x)$  とするとき,  $\frac{d\varphi}{dx}, \frac{d^2\varphi}{dx^2}$  を  $f$  の偏導関数を用いて表せ.

(埼玉大 2004) (m20041404)

0.38 次の微分方程式の一般解を求めよ. ただし,  $y'' = \frac{d^2y}{dx^2}, y' = \frac{dy}{dx}$  である.

- (1)  $y'' - y' - 2y = 2x^2 - 6x$   
 (2)  $x^3yy' = y^2 + 1$

(3)  $(y + xy')xy = x^2 + 2$

(埼玉大 2004) (m20041405)

0.39  $\mathbb{R}^3$  の 3 つのベクトル  $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 0 \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{c} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$  を考える.

(1)  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$  は 1 次独立 (線形独立) であることを示せ.

(2) ベクトル  $\begin{pmatrix} 3 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}$  を  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$  の 1 次結合 (線形結合) として表せ.

(埼玉大 2004) (m20041406)

0.40  $a, b, c, d$  は実数とする.

(1) 行列  $A = \begin{pmatrix} 1 & a \\ b & 1 \end{pmatrix}$  の階数が 1 となるための  $a, b$  の条件を求めよ.

(2) 行列  $B = \begin{pmatrix} 1 & c & 1 & c \\ d & 1 & d & 1 \\ c & d & c & d \end{pmatrix}$  の階数が 2 となるための  $c, d$  の条件を求めよ.

(埼玉大 2004) (m20041407)

0.41 行列  $A = \begin{pmatrix} 3 & -2 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$  について, 次の問いに答えよ.

(1)  $A$  の固有値  $\lambda_1, \lambda_2$  を求めよ.

(2) (1) で求めた固有値に対する固有ベクトルを求めよ.

(3)  $P = \begin{pmatrix} a & b \\ 1 & 1 \end{pmatrix}$ ,  $B = \begin{pmatrix} \lambda_1 & 0 \\ 0 & \lambda_2 \end{pmatrix}$  としたとき,  $AP = PB$  となる  $a, b$  を定めよ.

(4) (3) の関係を用いて  $A^n$  を求めよ. ただし,  $n$  は自然数とする.

(埼玉大 2004) (m20041408)

0.42 次の数列  $\{a_n\}$  は, ある有限の値に収束することを示せ.

$$a_1 = \sqrt{2}, \quad a_{n+1} = \sqrt{2 + a_n}$$

(埼玉大 2005) (m20051401)

0.43 (1) 次の行列  $A$  の固有値および固有ベクトルを求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ -\sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$$

(2) 行列  $A$  を  $P^{-1}AP$  により対角化せよ. 解答では, まず, 行列  $P$  を求めてから  $A$  を対角化せよ.

(埼玉大 2005) (m20051402)

0.44 次の微分方程式の一般解を求めよ. ただし,  $y'' = \frac{d^2y}{dx^2}$ ,  $y' = \frac{dy}{dx}$  である.

(1)  $2x^2y' = x^2 + y^2$

(2)  $y'' + 2\varepsilon y' + \omega_0^2 y = F \sin \omega x$  (ただし,  $\varepsilon \neq 0$ ,  $\omega_0^2 > \varepsilon^2$ )

(埼玉大 2005) (m20051403)

0.45 行列  $A = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 & a & a & 1 \\ a & a & a & a \\ 1 & a & 1 & a \\ a & a & 1 & 1 \end{pmatrix}$  について、次の問に答えよ.

- (1) 行列  $A$  の行列式が 0 となるような実数  $a$  の値を求めよ.
- (2) 行列  $A$  が直交行列となるような実数  $a$  の値を求めよ.

(埼玉大 2005) (m20051404)

0.46 行列  $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 2 & 2 & 3 \end{pmatrix}$  について、次の問に答えよ.

- (1) 行列  $A$  の固有値と階数を求めよ.
- (2) 行列  $A$  を対角化して得られる行列を書け (結果だけでよい).
- (3) 行列  $A^3$  のトレースを求めよ.

(埼玉大 2005) (m20051405)

0.47  $\Omega = \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid x > 0\}$  とし、 $\Omega$  で定義された実数値関数  $f$  を

$$f(x, y) = \tan^{-1} \frac{y}{x}$$

とする. ただし、 $\tan^{-1}$  は正接関数  $\tan$  の定義域を  $(-\frac{\pi}{2}, \frac{\pi}{2})$  に制限したものの逆関数である. また、 $D = \{(x, y) \in \Omega \mid 2 \leq x^2 + y^2 \leq 3, 0 \leq y \leq x\}$  とおく. 次の問に答えよ.

- (1)  $f$  の 1 階の偏導関数をすべて求めよ.
- (2)  $f$  の 2 階の偏導関数をすべて求めよ.
- (3)  $D$  を図示せよ.
- (4) 重積分  $\iint_D f(x, y) dx dy$  の値を求めよ.

(埼玉大 2005) (m20051406)

0.48 (1) 数列  $\{a_n\}_{n=1}^{\infty}$  は次を満たすとする.

すべての自然数  $n$  に対して  $a_n \geq 0$  であり、 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n < \infty$  である.

このとき、 $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = 0$  は成立するか. 成立するならば証明し、成立しないならば反例をあげよ.

- (2) 次の条件をすべて満たす関数  $f$  の例を挙げよ.
  - $f$  は区間  $[0, \infty)$  で定義された連続関数である.
  - すべての  $x \in [0, \infty)$  に対し  $f(x) \geq 0$  である.
  - $\int_0^{\infty} f(x) dx < \infty$  である.
  - $\lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = 0$  が成立しない.

(埼玉大 2005) (m20051407)

0.49 次の関数を微分せよ.

(1)  $y = \frac{x^2 + x + 1}{\sqrt{x}}$

(2)  $y = \sqrt{1 + \cos x}$



(3)  $y = x^e e^x \quad (x > 0)$

(4)  $y = \log(x + \sqrt{x^2 + 1})$

(埼玉大 2006) (m20061401)

**0.50** (1)  $t = \tan \frac{x}{2}$  とするとき,  $\sin x, \cos x$  および  $\frac{dt}{dx}$  を  $t$  の式で表せ.

(2) 定積分  $\int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{dx}{2 + \cos x}$  を求めよ.

(埼玉大 2006) (m20061402)

**0.51** (1) 変数  $x_1, x_2, x_3, y_1, y_2, y_3, z_1, z_2$  の間に,  $x_1 = 3y_1 + y_2 + 2y_3, x_2 = -y_1 + 2y_3, y_1 = 3z_1 - 2z_2, y_2 = az_2, y_3 = z_1 + 4z_2$  の関係があるとき,  $x_1, x_2$  を  $z_1, z_2$  で表す式を求め, さらに, 任意の  $z_1, z_2$  において,  $x_1 = kx_2$  となるための定数  $a$  および  $k$  を求めよ. ただし,  $k \neq 0$  とする.

(2) 次の行列式を求めよ.

$$\begin{vmatrix} 2 & 0 & 1 & -2 \\ 1 & 3 & 2 & -1 \\ -1 & 5 & 1 & 1 \\ 2 & 7 & -6 & 3 \end{vmatrix}$$

(埼玉大 2006) (m20061403)

**0.52** 関数  $f = x_1^2 + x_2^2 + 2x_1x_3 + 2x_2x_3$  に関連した以下の問に答えよ. ただし,  $M^T$  は, 行列  $M$  の転置を表すものとする.

(1)  $f$  は, 列行列  $\mathbf{x} = (x_1, x_2, x_3)^T$  及び, 対称行列  $\mathbf{A}$  を用いて,  $f = \mathbf{x}^T \mathbf{A} \mathbf{x}$  と表す事が出来る. 対称行列  $\mathbf{A}$  を求めよ.

(2) 対称行列  $\mathbf{A}$  の固有値, および固有ベクトル  $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \mathbf{p}_3$  を求めよ. ただし, 固有ベクトル (列ベクトル) は, 大きさが 1 となるように規格化せよ.

(3)  $(x_1, x_2, x_3)^T = y_1 \mathbf{p}_1 + y_2 \mathbf{p}_2 + y_3 \mathbf{p}_3 = (\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \mathbf{p}_3)(y_1, y_2, y_3)^T$  の関係を用いて, 関数  $f$  を変数  $y_1, y_2, y_3$  で表せ. ただし,  $(\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \mathbf{p}_3)$  は  $3 \times 3$  の正方行列の各列が,  $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2$  および  $\mathbf{p}_3$  で表される行列であることを表す.

(埼玉大 2006) (m20061404)

**0.53** 次の微分方程式を解け.

(1)  $x(x-y)\frac{dy}{dx} + y^2 = 0$

(2)  $\frac{dy}{dx} - xy = x$

(3)  $\frac{d^2y}{dx^2} + y = 2 \sin x$

(埼玉大 2006) (m20061405)

**0.54** 写像  $T: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^2$  を  $\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \mapsto \begin{pmatrix} 2x + 4y + 3z \\ x + 2y + z \end{pmatrix}$  により定義する.

$\mathbb{R}^3$  のベクトル  $\mathbf{a}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \mathbf{a}_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \mathbf{a}_3 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix}$  と

$\mathbb{R}^2$  のベクトル  $\mathbf{b}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \mathbf{b}_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}$  について, 次の問に答えよ.

(1)  $\{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3\}$  は  $\mathbb{R}^3$  の基底であることを示せ.

(2)  $(T(\mathbf{a}_1), T(\mathbf{a}_2), T(\mathbf{a}_3)) = (\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2)A$  を満たす 2 行 3 列の行列  $A$  を求めよ.

(埼玉大 2006) (m20061406)

**0.55**  $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$  とする.

- (1)  $A$  の固有値と固有ベクトルを求め、 $A$  を対角化せよ. (2) 自然数  $n$  に対して、 $A^n$  を求めよ.  
(埼玉大 2006) (m20061407)

**0.56**  $n$  を自然数とし、 $I_n = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^n x dx$  とおく.

- (1)  $I_2$  を求めよ. (2)  $n \geq 3$  のとき、 $I_n = \frac{n-1}{n} I_{n-2}$  を示せ.  
(埼玉大 2006) (m20061408)

**0.57**  $f(x, y) = x^2 - x \sin y - \cos^2 y$  とする.

- (1) 偏導関数  $f_x, f_y, f_{xx}, f_{xy}, f_{yx}, f_{yy}$  を求めよ.  
(2)  $f_x(x, y) = f_y(x, y) = 0$  を満たす点  $(x, y)$  をすべて求めよ.  
(3)  $f$  の極値を求めよ.  
(埼玉大 2006) (m20061409)

**0.58** (1) 関数  $f(x) = (1+x)^\alpha$  をマクローリン展開することにより、次式を導き出せ.

$$(1+x)^\alpha = 1 + \sum_{i=1}^{\infty} {}_\alpha C_i x^i \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

ただし、 ${}_\alpha C_i$  は次式で表される.  ${}_\alpha C_i = \frac{\alpha(\alpha-1)\cdots(\alpha-i+1)}{i!} \quad (i \geq 1)$

- (2) 式①を用いて次の関数  $g(x)$  のマクローリン展開式を  $x^3$  の項まで求めよ.  $g(x) = \frac{1}{\sqrt{1+x+x^2}}$   
(埼玉大 2007) (m20071401)

**0.59** 次の不定積分を求めよ.

- (1)  $\int \sqrt{4-x^2} dx$  (2)  $\int \frac{dx}{x^3+1}$   
(埼玉大 2007) (m20071402)

**0.60** 行列式  $f(x)$  について考える.  $f(x) = \begin{vmatrix} x-2 & 5 & 10 \\ -1 & x+4 & 10 \\ -5 & 6 & x-6 \end{vmatrix}$

- (1) 行列式  $f(x)$  を求めよ. (2) 行列式  $f(x)$  が 0 となる時、 $x$  の値を求めよ.  
(埼玉大 2007) (m20071403)

**0.61** 行列  $A$  は以下のように対称行列  $R$  と交代行列  $S$  の和で表すことができる.

$A = R + S,$  ただし、 $A = \begin{pmatrix} 5 & 3 & 1 \\ 7 & 5 & 3 \\ 8 & 2 & 6 \end{pmatrix}$  とする. このとき、 $R$  および  $S$  を求めよ.

(埼玉大 2007) (m20071404)

0.62 以下の3つのベクトル  $\mathbf{a}$ ,  $\mathbf{b}$ ,  $\mathbf{c}$  について考える.

$$\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix} \quad \mathbf{b} = \begin{pmatrix} -2 \\ 3 \\ 1 \end{pmatrix} \quad \mathbf{c} = \begin{pmatrix} x \\ 3 \\ -1 \end{pmatrix}$$

- (1)  $\mathbf{a}$  と  $\mathbf{b}$  で囲まれた平行四辺形の面積を求めよ.  
 (2) 3つのベクトルでできる平行六面体の体積が12となる時,  $x$  の値を求めよ.

(埼玉大 2007) (m20071405)

0.63 次の微分方程式を解け.

$$(1) 2x^2 \frac{dy}{dx} = x^2 + y^2 \qquad (2) \frac{dy}{dx} + y \tan x + \cot^2 x = 0$$

(埼玉大 2007) (m20071406)

0.64 次の連立微分方程式を解け.

$$\begin{aligned} \frac{dx}{dt} - x + 2y &= e^t \\ 3x + \frac{dy}{dt} - 2y &= 1 \end{aligned}$$

(埼玉大 2007) (m20071407)

0.65  $a, b$  を実数とし, 正方行列  $A = \begin{pmatrix} 1 & a & 1 & 1 \\ 1 & 1 & a & 1 \\ 1 & 1 & 1 & a \\ a & 1 & 1 & 1 \end{pmatrix}$ ,  $B = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 & b \\ b & 1 & 1 & 1 \\ 1 & b & 1 & 1 \\ 1 & 1 & b & 1 \end{pmatrix}$  を考える.

- (1)  $A$  の階数を求めよ.  
 (2) 積  $AB$  が単位行列になるような  $a, b$  の組をすべて求めよ.

(埼玉大 2007) (m20071408)

0.66  $A = \begin{pmatrix} 2 & -1 & 4 \\ 0 & 1 & 4 \\ -3 & 3 & -1 \end{pmatrix}$  とする.

- (1)  $A$  の固有値と固有ベクトルを求めよ.  
 (2)  $P^{-1}AP$  が対角行列になるような正則行列  $P$  を1つ求めよ.

(埼玉大 2007) (m20071409)

0.67 (1) 次の等式を示せ.

$$\frac{1}{1+t} = 1 - t + t^2 - t^3 + \cdots + (-1)^{n-1} t^{n-1} + (-1)^n \frac{t^n}{1+t} \quad (t \neq -1)$$

(2) 上式を利用して, 次の式を示せ.

$$\log(1+x) = x - \frac{x^2}{2} + \frac{x^3}{3} - \frac{x^4}{4} + \cdots + (-1)^{n-1} \frac{x^n}{n} + R_n(x) \quad (x > -1)$$

ただし,  $R_n(x) = (-1)^n \int_0^x \frac{t^n}{1+t} dt$  とする.

- (3)  $0 \leq x \leq 1$  のとき  $R_n(x) \rightarrow 0$  ( $n \rightarrow \infty$ ) を示せ.  
 (4)  $-1 < x < 0$  のとき  $R_n(x) \rightarrow 0$  ( $n \rightarrow \infty$ ) を示せ.

(埼玉大 2007) (m20071410)

0.68 放物線  $y = x^2$  と直線  $y = x + 2$  で囲まれる  $xy$  平面内の有界領域を  $D$  とする.

領域  $D$  を図示し, 重積分  $\iint_D y dx dy$  を計算せよ.

(埼玉大 2007) (m20071411)

0.69 以下の関数を微分せよ.

(1)  $y = \tan^{-1} \frac{x}{a}$  ( $a$  は 0 ではない定数) (2)  $y = x^x$

(埼玉大 2008) (m20081401)

0.70 以下の積分を求めよ.

(1)  $\int \frac{x^3 - 1}{x(x-1)^3} dx$  (2)  $\iint_D x dx dy$ ,  $D = \{(x, y) \mid y \leq 2x, x \leq 2y, x + y \leq 6\}$

(埼玉大 2008) (m20081402)

0.71 (1) 行列  $A$  の階数を求めよ.  $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 & 1 \\ 1 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$

(2) 行列  $B$  の逆行列を求めよ.  $B = \begin{pmatrix} 4 & 0 & 5 \\ 0 & 1 & -6 \\ 3 & 0 & 4 \end{pmatrix}$

(3) 行列  $C$  の行列式を求めよ. ただし, 解答は因数分解した形で表せ.  $C = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ x_1 & x_2 & x_3 \\ x_1^2 & x_2^2 & x_3^2 \end{pmatrix}$

(埼玉大 2008) (m20081403)

0.72 以下の微分方程式を解け.

(1)  $(x^2 + 2xy)dx + (x^2 - y^2)dy = 0$  (2)  $2x \frac{dy}{dx} - y = -xy^3$

(3)  $\frac{d^2y}{dx^2} - \frac{dy}{dx} - 2y = 10 \cos x$  (4)  $x^2 \frac{d^2y}{dx^2} - 3x \frac{dy}{dx} + 4y = x$

(埼玉大 2008) (m20081404)

0.73 ベクトルの列  $\begin{pmatrix} x_1 \\ y_1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} x_2 \\ y_2 \end{pmatrix}, \dots, \begin{pmatrix} x_n \\ y_n \end{pmatrix}, \dots$  を次のように定める.

(1)  $\begin{pmatrix} x_1 \\ y_1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}$

(2)  $n$  が奇数のとき  $\begin{pmatrix} x_{n+1} \\ y_{n+1} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} y_n \\ x_n \end{pmatrix}$

(3)  $n$  が偶数のとき  $\begin{pmatrix} x_{n+1} \\ y_{n+1} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -x_n + y_n \\ x_n + y_n \end{pmatrix}$

自然数  $k$  に対して,  $\begin{pmatrix} x_{2k+1} \\ y_{2k+1} \end{pmatrix}$  を求めよ.

(埼玉大 2008) (m20081405)

0.74  $\mathbf{R}^2$  のベクトル  $\mathbf{x}, \mathbf{y}$  の内積を  $(\mathbf{x}, \mathbf{y})$  で表す.  $\mathbf{u} \in \mathbf{R}^2$  を長さ 1 のベクトルとして, 直線

$$l = \{\mathbf{x} \in \mathbf{R}^2 \mid (\mathbf{x}, \mathbf{u}) = 0\}$$

に関する折り返し写像を  $T$  とする. すなわち,  $T(\mathbf{x})$  は直線  $l$  に関して  $\mathbf{x}$  と線対称の位置にあるベクトルである.

(1)  $T(\mathbf{x})$  を  $\mathbf{x}$  と  $\mathbf{u}$  を用いて表せ.

(2)  $\mathbf{u} = \begin{pmatrix} \cos \theta \\ \sin \theta \end{pmatrix}$  とするとき,  $T(\mathbf{x}) = A\mathbf{x}$  となる行列  $A$  を求めよ.

(埼玉大 2008) (m20081406)

0.75  $n$  を自然数とする. 次の問いに答えよ.

(1)  $\lim_{x \rightarrow 0} x(\log |x|)^n$  を求めよ.

(2) 広義積分  $\int_0^1 (\log x)^n dx$  の値を求めよ.

(埼玉大 2008) (m20081407)

0.76 関数  $f(x, y) = xe^{-x^2-y^2}$  について次の問いに答えよ.

(1) 偏導関数  $f_x(x, y), f_y(x, y)$  を計算し,  $f_x(x, y) = f_y(x, y) = 0$  となる  $(x, y)$  をすべて求めよ.

(2)  $f(x, y)$  の極値を求めよ.

(埼玉大 2008) (m20081408)

0.77 (1) 関数  $f(x) = \sqrt{\frac{x-1}{x-2}}$  の導関数  $f'(x)$  を求めなさい.

(2) 関数  $f(x) = \frac{x^3}{1-x}$  の第 4 次導関数  $f^{(4)}(x)$  を求めなさい.

(3) 次の極限値を求めなさい.

$$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{\log(\cos 2x)}{\log(\cos 3x)}$$

(4)  $xy$  平面において  $y = \frac{1}{\sin x}$  のグラフで与えられる曲線と 直線  $x = \frac{\pi}{3}, x = \frac{2\pi}{3}$  および  $x$  軸で囲まれた部分の面積  $S$  を求めなさい.

(埼玉大 2009) (m20091401)

0.78 (1)  $\mathbf{R}^2$  における一次変換  $f$  は, 点  $(1, 2)$  を点  $(0, 3)$  に, 点  $(2, 0)$  を点  $(4, 2)$  に移す. このとき, 以下の問いに答えなさい.

(a) 一次変換  $f$  を表す行列を求めなさい.

(b) 一次変換  $f$  によって,  $y = x - 1$  は, どのような図形に移されるか.

(2) 次の 2 つのベクトルについて考える.

$$\mathbf{a} = \begin{pmatrix} -2 \\ 2 \\ -1 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 5 \end{pmatrix}$$

(a)  $\mathbf{a}$  と  $\mathbf{b}$  は, 一次従属か一次独立か調べなさい.

(b)  $\mathbf{a}$  と  $\mathbf{b}$  のなす角  $\theta$  とするとき,  $\cos \theta$  を求めなさい.

(3) 次の行列  $A$  について考える.

$$A = \begin{pmatrix} -2 & 3 & 2 \\ -6 & 7 & 2 \\ 3 & -3 & 3 \end{pmatrix}$$

- (a) 固有値をすべて求めなさい.  
 (b) 固有ベクトルをすべて求めなさい.

(埼玉大 2009) (m20091402)

**0.79** 以下の微分方程式の解を求めなさい. ただし,  $c$  は実定数とする.

- (1)  $\frac{dy}{dx} + y = x$   
 (2)  $\frac{dy}{dx} - xy = -y^3 e^{-x^2}$   
 (3)  $e^y dx + x e^y dy = 0$   
 (4)  $\frac{d^2 y}{dx^2} + cy = 0$

(埼玉大 2009) (m20091403)

**0.80** 次の行列の行列式の値が 0 となるような  $x$  を求めよ.

$$\begin{pmatrix} 0 & x & 1 & 2 \\ -x & 0 & 3 & 4 \\ -1 & -3 & 0 & 5 \\ -2 & -4 & -5 & 0 \end{pmatrix}$$

(埼玉大 2009) (m20091404)

**0.81** (1)  $A = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$  とする. ただし,  $\theta$  は  $0 < \theta < 2\pi$ ,  $\theta \neq \pi$  を満たす実数とする.

次の条件 (a),(b),(c) をすべて満たすような  $\alpha_1, \alpha_2, \mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2$  の組を 1 つ求めよ.

- (a)  $\alpha_1, \alpha_2$  は相異なる複素数である.  
 (b)  $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2$  は複素数を成分とする 2 次元ベクトルで, どちらも零ベクトルではなく, さらに  $\frac{1}{2}(\mathbf{p}_1 + \mathbf{p}_2)$  と  $\frac{i}{2}(\mathbf{p}_1 - \mathbf{p}_2)$  はともに実数を成分とするベクトルになる.  
 (c)  $A\mathbf{p}_1 = \alpha_1\mathbf{p}_1$  かつ  $A\mathbf{p}_2 = \alpha_2\mathbf{p}_2$  を満たす.

(2)  $B$  を 2 次の実正方向行列とし,  $B$  のどの固有値も実数でないとして仮定する.

- (i) 次の (d),(e),(f) をすべて満たすような  $\beta_1, \beta_2, \mathbf{q}_1, \mathbf{q}_2$  の組が存在することを示せ.  
 (d) 正の実数  $r$  と,  $0 < \theta < 2\pi$ ,  $\theta \neq \pi$  を満たす実数  $\theta$  を用いて,  $\beta_1 = r(\cos \theta + i \sin \theta)$ ,  $\beta_2 = r(\cos \theta - i \sin \theta)$  と表される.  
 (e)  $\mathbf{q}_1, \mathbf{q}_2$  は複素数を成分とする 2 次元ベクトルで, どちらも零ベクトルでなく, さらに  $\frac{1}{2}(\mathbf{q}_1 + \mathbf{q}_2)$  と  $\frac{i}{2}(\mathbf{q}_1 - \mathbf{q}_2)$  はともに実数を成分とするベクトルになる.  
 (f)  $B\mathbf{q}_1 = \beta_1\mathbf{q}_1$  かつ  $B\mathbf{q}_2 = \beta_2\mathbf{q}_2$  を満たす.  
 (ii) 2 次の実正則行列  $M$  が存在して,

$$M^{-1}BM = \begin{pmatrix} r \cos \theta & -r \sin \theta \\ r \sin \theta & r \cos \theta \end{pmatrix}$$

となることを示せ.

**0.82**  $f(x) = \log(x + \sqrt{1+x^2})$  とする.

- (1)  $(1+x^2)f''(x) + xf'(x) = 0$  が成り立つことを示せ.  
 (2) 非負整数  $n$  に対し,

$$(1+x^2)f^{(n+2)}(x) + (2n+1)xf^{(n+1)}(x) + n^2f^{(n)}(x) = 0$$

が成り立つことを示せ.

(埼玉大 2009) (m20091406)

**0.83**  $n$  を自然数とし,  $D_n = \left\{ (x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid \frac{1}{n} \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq x - \frac{1}{n} \right\}$  とおく.  $\alpha$  を  $0 < \alpha < 1$  を満たす定数とする. 次を求めよ.

- (1)  $\iint_{D_n} \frac{dx dy}{(x-y)^\alpha}$  を求めよ.  
 (2) (1) の積分値を  $I_n$  とおいたとき,  $\lim_{n \rightarrow \infty} I_n$  を求めよ.

(埼玉大 2009) (m20091407)

**0.84** 3次正方行列  $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 1 \\ 6 & -11 & 7 \end{pmatrix}$  について, 次の問いに答えよ.

- (1)  $A$  の固有値を求めよ.  
 (2)  $P^{-1}AP$  が対角行列となるような正則行列  $P$  を求めよ.

(埼玉大 2010) (m20101401)

**0.85** 0 と 1 のみを成分とする  $2 \times 3$  行列  $A$  で,

$$A {}^tA = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 2 \end{pmatrix}, \quad {}^tA A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \end{pmatrix}$$

を満たすものを求めよ. ここで,  ${}^tA$  は  $A$  の転置行列を表す.

(埼玉大 2010) (m20101402)

**0.86**  $x > 0$  に対して

$$F(x) = \int_0^\infty \frac{e^{-xt} \sin t}{t} dt$$

とおく. 次の問いに答えよ.

- (1)  $\lim_{x \rightarrow \infty} F(x)$  を求めよ.  
 (2)  $F'(x)$  を求めよ. ただし, 等式

$$\frac{d}{dx} \int_0^\infty \frac{e^{-xt} \sin t}{t} dt = \int_0^\infty \frac{\partial}{\partial x} \left\{ \frac{e^{-xt} \sin t}{t} \right\} dt$$

が成り立つことを用いてよい.

- (3)  $\lim_{x \rightarrow +0} F(x)$  を求めよ.

(埼玉大 2010) (m20101403)

0.87 (1) 区間  $(0, 1]$  で定義された実数値連続関数  $f(x)$  で

$$\int_0^1 |f(x)| dx < \infty \quad \text{かつ} \quad \int_0^1 |f(x)|^2 dx = \infty$$

を満たす例を一つ挙げよ.

(2) 区間  $[1, \infty)$  で定義された実数値連続関数  $g(x)$  で

$$\int_1^{\infty} |g(x)| dx < \infty \quad \text{かつ} \quad \sup_{1 \leq x < \infty} |g(x)| = \infty$$

を満たす例を一つ挙げよ.

(埼玉大 2010) (m20101404)

0.88 (1) つぎの関数を微分せよ.

$$y = \tan^{-1} \left( \frac{1 - \cos x}{\sin x} \right)$$

(2) つぎの関数の第  $n$  次導関数を求めよ.

$$y = (x + 1)^2 \log(x + 1)$$

(埼玉大 2010) (m20101405)

0.89 つぎの積分を求めよ.

(1)  $\int x^{11} e^{x^4} dx$

(2)  $\int \frac{x^2 - 3x + 4}{(x - 3)^2(x - 2)} dx$

(埼玉大 2010) (m20101406)

0.90 (1) つぎの行列式を計算せよ.

$$\begin{vmatrix} 1 & x & x & 0 \\ y & 1 & 0 & y \\ z & 0 & 1 & z \\ 0 & w & w & 1 \end{vmatrix}$$

(2) つぎの行列の逆行列を求めよ.

$$\begin{pmatrix} 1 & 1 & -2 \\ 2 & 1 & 0 \\ 2 & 1 & -1 \end{pmatrix}$$

(3) つぎの行列の固有値, 固有ベクトルの組をすべて求めよ.

$$\begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 2 & 2 & 6 \end{pmatrix}$$

(埼玉大 2010) (m20101407)

0.91 (1) 以下の微分方程式を解け.

(a)  $\frac{dy}{dx} = \tan x \cdot \tan y$

(b)  $\cos x \frac{dy}{dx} - y \sin x = 2 \cos x \sin x$

(c)  $\frac{d^2y}{dx^2} + \frac{dy}{dx} - 6y = e^x$



(2)  $y(t)$  が時刻  $t$  における物体の位置を表すとすると,  $f'(t)$  は速度,  $f''(t)$  は加速度を表す.

(a) 下記の運動方程式を満たすこの物体の位置  $y(t)$  を求めよ.

$$y''(t) + k^2 y(t) = 0 \quad (k > 0 \text{ の定数})$$

(b) 初期条件  $y(0) = A_0, y'(0) = 0$  を満たす解を求めよ.

(埼玉大 2010) (m20101408)

**0.92** (1) 次の関数を微分せよ.

$$y = \sin^{-1} \left( \frac{1}{2x^2 + 1} \right)$$

(2) 次の関数について  $\frac{dz}{dt}$  を  $t$  の関数で表せ.

$$z = x^2 + 2y, \quad x = \sin t, \quad y = 5 \cos t$$

(埼玉大 2011) (m20111401)

**0.93** 次の不定積分を求めよ.

$$\int (2x^2 \tan^{-1} 2x) dx$$

(埼玉大 2011) (m20111402)

**0.94** 次の二重積分の値を求めよ.

$$\iint_D xy dx dy, \quad (D = \{ (x, y) \mid x \geq 0, y \geq 0, 2x + 3y \leq 6 \})$$

(埼玉大 2011) (m20111403)

**0.95** 次の連立一次方程式について考える.

$$\begin{cases} x + y + z = 0 \\ 2x - y + 5z = 3 \\ x + 5y - 4z = -3 \end{cases}$$

(1) 上の連立方程式の係数行列を  $\mathbf{A}$  とするとき,  $\text{rank} \mathbf{A} = 3$  となることを示せ.

(2) クラメールの公式を使って  $x, y, z$  を求めよ.

(埼玉大 2011) (m20111404)

**0.96** 次のベクトルについて考える.

$$\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 2 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{b} = \begin{pmatrix} x \\ 5 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{c} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ z \end{pmatrix}$$

(1) 外積  $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$  を求めよ.

(2)  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$  を 3 辺とする平行六面体の体積が 50 のとき,  $z$  を求めよ.

(埼玉大 2011) (m20111405)

**0.97** 以下の微分方程式を解け.

$$(1) x \frac{dy}{dx} - 2x^2 y = y$$

$$(2) 4y^2 + \left( \frac{dy}{dx} \right)^2 = 4$$

$$(3) \frac{d^2 y}{dx^2} + 6 \frac{dy}{dx} + 8y = 0$$

$$(4) \frac{d^2 y}{dx^2} - 6 \frac{dy}{dx} + 9y = \sin 3x$$

(埼玉大 2011) (m20111406)

**0.98**  $A = \begin{pmatrix} 0 & -1 & 0 \\ 0 & -1 & 1 \\ 1 & -1 & 0 \end{pmatrix}$  とおく.

- (1) 行列  $A$  の固有値を求めよ.
- (2) 自然数  $n$  に対して, 行列  $A^n$  を計算せよ.

(埼玉大 2011) (m20111407)

**0.99**  $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 3 \\ 1 & 2 & 4 \\ 2 & 3 & 5 \end{pmatrix}$  が定める線形写像  $T : \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^3$  ( $T(x) = Ax, x \in \mathbb{R}^3$ ) を考える.

- (1) 写像  $T$  の像  $\text{Im} T$  の基底を 1 組求めよ.
- (2) 写像  $T$  の核  $\text{Ker} T$  の基底を 1 組求めよ.

(埼玉大 2011) (m20111408)

**0.100**  $xy$  平面上で定義された関数  $f = f(x, y)$  は, 正値で 2 階微分可能であり,

$$f \frac{\partial^2 f}{\partial x \partial y} = \frac{\partial f}{\partial x} \cdot \frac{\partial f}{\partial y} \quad \dots\dots (*)$$

を満たすものとする. また,  $g(x, y) = \log f(x, y)$  とおく.

- (1)  $\frac{\partial^2 g}{\partial x \partial y}$  が満たす式を,  $f$  を用いずに表せ.
- (2)  $\phi(x)\psi(y)$  の形の関数を変数分離型関数とよぶ,  $\phi$  と  $\psi$  が正値で 2 階微分可能な関数であるならば,  $f(x, y) = \phi(x)\psi(y)$  は, 上の条件 (\*) を満たすことを示せ.
- (3) 上の条件 (\*) を満たす関数  $f$  は, 変数分離型の関数であることを示せ.

(埼玉大 2011) (m20111409)

**0.101**  $\alpha > 0$  とする.  $x \geq 1$  で定義された関数  $f_\alpha(x)$  は,

$$x \in [n, n+1) \text{ において } f_\alpha(x) = \frac{1}{n^\alpha}$$

となるものとする. ただし,  $n$  は自然数とする. このとき

$$\int_1^{N+1} f_\alpha(x) dx = \sum_{n=1}^N \frac{1}{n^\alpha}$$

となることを利用して次の問いに答えよ.

- (1)  $\alpha > 1$  のとき  $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^\alpha}$  が収束することを示せ.
- (2)  $\alpha \leq 1$  のとき  $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^\alpha}$  が発散することを示せ.

(埼玉大 2011) (m20111410)

**0.102** 次の関数を微分せよ.

- (1)  $y = \cos(\sin x)$
- (2)  $y = x^{\sin^{-1} x} \quad (0 < x < 1)$

(埼玉大 2012) (m20121401)

0.103 次の定積分を求めよ.

$$\int_{-\pi}^{\pi} \sin mx \sin nx dx \quad (m, n \text{ は自然数})$$

(埼玉大 2012) (m20121402)

0.104 次の2重積分を求めよ.

$$\iint_D e^{x+y} dx dy$$

ただし, 直線  $y = x$ ,  $x = 1$ ,  $y = 0$  で囲まれた領域を  $D$  とする.

(埼玉大 2012) (m20121403)

0.105 行列  $A = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 4 & 1 \end{bmatrix}$  とするとき, 以下の問いに答えよ.

- (1) 固有値  $\lambda_1, \lambda_2$  と, それに対応する固有ベクトル  $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2$  を一組求めよ.
- (2) 固有ベクトル  $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2$  を並べて作った行列を  $P = [\mathbf{a}_1 \ \mathbf{a}_2]$  としたとき,  $P^{-1}AP$  を求めよ.
- (3)  $A^n$  を求めよ.

(埼玉大 2012) (m20121404)

0.106 次の行列式を求めよ. ただし, 解答は因数分解した形で表せ.

$$\begin{vmatrix} 0 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & a^2 & b^2 \\ 1 & a^2 & 0 & c^2 \\ 1 & b^2 & c^2 & 0 \end{vmatrix}$$

(埼玉大 2012) (m20121405)

0.107 (1) 以下の微分方程式を解け.

(a)  $\frac{dy}{dx} + 2y = x^2$

(b)  $\frac{d^2y}{dx^2} + 2\frac{dy}{dx} + y = 6e^{-x}$

(2) 室温が  $20^\circ\text{C}$  の部屋に置いたコーヒーの温度の変化率は, 時刻  $t$ [分] におけるコーヒーの温度  $T(t)[^\circ\text{C}]$  と室温の差に比例する.

(a) このときの比例係数を  $-k(k > 0)$  とし, 時間  $t$  と温度  $T(t)$  の関係を微分方程式を用いて表せ.

(b)  $t = 0$  で  $100^\circ\text{C}$  だったコーヒーが, 3分後に  $60^\circ\text{C}$  になったとすると,  $40^\circ\text{C}$  になるまでの時間を求めよ.

(埼玉大 2012) (m20121406)

0.108 次の関数を微分せよ.

$$y = \tan(\log x) \quad (x > 0)$$

(埼玉大 2013) (m20131401)

0.109 次の関数の偏導関数  $\partial f / \partial x$ ,  $\partial f / \partial y$  を求めよ.

$$f(x, y) = x^2 e^{\frac{y}{x}}$$

(埼玉大 2013) (m20131402)

0.110 次の定積分を求めよ.

$$\int_0^2 \sqrt{4-x^2} dx$$

(埼玉大 2013) (m20131403)

0.111 次の2重積分を求めよ。ただし、 $x \geq 0$ ,  $\sqrt{x} \geq y \geq x$ で囲まれた領域を  $D$  とする。

$$\iint_D (x+y) dx dy \quad D : x \geq 0, \sqrt{x} \geq y \geq x \quad (\text{埼玉大 2013}) \quad (\text{m20131404})$$

0.112 行列  $A$  について以下の問いに答えよ。

$$A = \begin{bmatrix} a & b & -2 \\ b & a & 2 \\ -1 & -1 & -1 \end{bmatrix}$$

- (1) 行列  $A$  の固有値が  $-1, 1, 3$  となる  $a$  と  $b$  の値を求めよ。ただし、 $a > b > 0$  とする。
- (2) 固有値が  $-1, 1, 3$  に対応する固有ベクトル  $V_1, V_2, V_3$  を求めよ。ただし、 $V_1, V_2, V_3$  は単位ベクトルとする。
- (3) 固有ベクトルからなる行列  $P = [V_1 \ V_2 \ V_3]$  の逆行列を求めよ。
- (4) 行列  $P$  を用いて行列  $A$  を対角化せよ。

(埼玉大 2013) (m20131405)

0.113 原点を通る2つのベクトル  $a, b$  について以下の問いに答えよ。

$$a = \begin{pmatrix} -1 & 2 & 2 \end{pmatrix} \quad b = \begin{pmatrix} 4 & -4 & 2 \end{pmatrix}$$

- (1) ベクトル  $a, b$  のなす角を求めよ。
- (2) ベクトル  $a, b$  に垂直なベクトルを1つ求めよ。

(埼玉大 2013) (m20131406)

0.114 以下の微分方程式の一般解を求めよ。

- (1)  $x \frac{dy}{dx} = 3y$
- (2)  $\frac{(x^2 - y^2)}{2} \frac{dy}{dx} = xy$
- (3)  $\frac{dy}{dx} e^x - x + y e^x = 0$
- (4)  $\frac{d^2 y}{dx^2} - 3 \frac{dy}{dx} - 10y = 0$

(埼玉大 2013) (m20131407)

0.115 行列  $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 2 \\ 0 & 1 & 2 \\ 2 & 2 & -1 \end{pmatrix}$  に対し、次の問いに答えよ。

- (1)  $A$  の固有値を求めよ。
- (2)  $P^{-1}AP$  が対角行列となる直交行列  $P$  を1つ求めよ。
- (3)  $A^n$  ( $n = 1, 2, 3, \dots$ ) を求めよ。

(埼玉大 2013) (m20131408)

0.116  $a, b$  は実数とし

$$A = \begin{pmatrix} a & a+1 & 3 & a+1 \\ a+3 & a+5 & 5 & a+3 \\ b & b+2 & a+1 & 7 \end{pmatrix}$$

とする。写像  $f: \mathbb{R}^4 \rightarrow \mathbb{R}^3$  を  $f(x) = Ax$  ( $x \in \mathbb{R}^4$ ) により定める。このとき、 $f$  が全射でないような組  $(a, b)$  をすべて求めよ。

(埼玉大 2013) (m20131409)

**0.117**  $-1 < x < 1$  に対し,  $t = \sqrt{\frac{1-x}{1+x}}$  とおく. 次の問いに答えよ.

(1)  $x$  を  $t$  の式で表し, さらに, 導関数  $\frac{dx}{dt}$  を求めよ.

(2) 不定積分

$$\int \frac{dx}{(2-x)\sqrt{1-x^2}}$$

を  $t$  の不定積分で表せ.

(3) 広義積分

$$\int_{-1}^1 \frac{dx}{(2-x)\sqrt{1-x^2}}$$

を求めよ.

(埼玉大 2013) (m20131410)

**0.118**  $a, b$  を正の定数とし,  $f(x, y) = a(x^2 + y^2) - b(x - y)^4$  とする. 次の問いに答えよ.

(1) 偏導関数  $f_x(x, y), f_y(x, y)$  を計算し,  $f_x(x, y) = f_y(x, y) = 0$  となる点を求めよ.

(2)  $f(x, y)$  の極値とそれを与える点を求めよ.

(埼玉大 2013) (m20131411)

**0.119** 直交座標系の座標軸  $O-xyz$  を, 原点を固定して回転した座標軸を  $O-XYZ$  とする. 直交座標の基本ベクトル  $e_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, e_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, e_3 = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$  がそれぞれ, 新座標系の正規直交形で

$$u_1 = \begin{pmatrix} -\frac{1}{\sqrt{3}} \\ \frac{1}{\sqrt{3}} \\ \frac{1}{\sqrt{3}} \end{pmatrix}, u_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ -\frac{1}{\sqrt{2}} \\ \frac{1}{\sqrt{2}} \end{pmatrix}, u_3 = \begin{pmatrix} \frac{2}{\sqrt{6}} \\ \frac{1}{\sqrt{6}} \\ \frac{1}{\sqrt{6}} \end{pmatrix}$$
 と表されたとき, 以下の設問に答えよ.

(1) 旧座標系で表された点  $(\sqrt{3}, \sqrt{2}, \sqrt{6})$  の新座標系での座標を求めよ.

(2) 新座標系で  $(0, 4, 2)$  と表される点の旧座標系での座標を求めよ.

(埼玉大 2014) (m20141401)

**0.120** 3つのベクトルが,  $\mathbf{a} = (1, 1, 1), \mathbf{b} = (3, 2, 1), \mathbf{c} = (1, 0, 0)$  であるとき,

(1)  $(\mathbf{a} \times \mathbf{b}) \cdot (\mathbf{a} \times \mathbf{b})$  を求めよ.

(2)  $\mathbf{c} \times (\mathbf{a} \times \mathbf{b})$  を求めよ.

(埼玉大 2014) (m20141402)

**0.121** (1)  $x = x_0$  付近で連続な関数  $f(x)$  に対し,  $\int_{-\infty}^{\infty} f(x)\delta(x - x_0)dx = f(x_0)$  が成り立つ関数  $\delta(x)$  がある.  $\int_{-\infty}^{\infty} 3\delta(x)e^{-ixy}dx$  の値を求めよ. ただし,  $i = \sqrt{-1}$  とする.

(2) 関数  $f(x), g(x)$  があり, それぞれ  $F(y) = \int_{-\infty}^{\infty} f(x)e^{-ixy}dx, G(y) = \int_{-\infty}^{\infty} g(x)e^{-ixy}dx$  とするとき, 次式  $\int_{-\infty}^{\infty} \left( \int_{-\infty}^{\infty} f(x)g(z-x)dx \right) e^{-iyz}dz$  が収束するとして, これを,  $F(y)$  および  $G(y)$

を用いて表せ. ただし,  $\int_{-\infty}^{\infty} |f(x)|dx < \infty$ ,  $\int_{-\infty}^{\infty} |g(x)|dx < \infty$  とする.

(埼玉大 2014) (m20141403)

**0.122** 以下の微分方程式を解け.

$$(1) x \frac{dy}{dx} = y - 1 \quad (2) x + y \frac{dy}{dx} = 2y \quad (3) \frac{d^2y}{dx^2} - 3 \frac{dy}{dx} = e^{3x} \quad (4) \frac{d^2y}{dx^2} - \frac{dy}{dx} - 2y = \sin x$$

(埼玉大 2014) (m20141404)

**0.123**  $a, b$  を実数とし, 次の連立 1 次方程式を考える.

$$(*) \begin{cases} x + 2y - 2z = 3 \\ 2x + y + az = 9 \\ -3x - 5y + 4z = b \end{cases}$$

- (1) 連立 1 次方程式 (\*) が解を持つ条件を  $a, b$  を用いて述べよ.  
 (2) 連立 1 次方程式 (\*) が解を無限個持つような  $a, b$  に対して, その一般解を求めよ.

(埼玉大 2014) (m20141405)

**0.124** (1) 3 次正方行列

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 3 & -5 \\ 1 & 3 & -4 \\ 1 & 2 & -3 \end{pmatrix}$$

の固有値をすべて求め, さらに, それぞれの固有値に対する固有ベクトルをすべて求めよ.

- (2) 次の主張は正しいか, それとも誤りか, 正しいければ証明し, 誤りならば反例を挙げよ.

(主張) 「2 次実正方行列  $B$  が相異なる実数の固有値  $\alpha, \beta$  を持つならば, ある実正則行列  $P$  が存在し,  $P^{-1}BP = \begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & \beta \end{pmatrix}$  となる. 」

(埼玉大 2014) (m20141406)

**0.125**  $k$  を 2 以上の自然数とし,  $\Omega = \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid x > 0, y \in \mathbb{R}\}$  上で定義された関数  $f(x, y) = x^x + xy^k$  を考える.

- (1)  $f_x = f_y = 0$  を満たす点を求めよ.  
 (2)  $k = 2$  のとき, (1) で求めた点で関数  $f$  は極値をとるかどうかを判定せよ.  
 (3)  $k = 3$  のとき, (1) で求めた点で関数  $f$  は極値をとるかどうかを判定せよ.

(埼玉大 2014) (m20141407)

**0.126**  $D = \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid (x^2 + y^2)^2 \leq x^2 - y^2, x \geq 0\}$  とする. 極座標を用いて, 積分

$$\iint_D \frac{dx dy}{(1 + x^2 + y^2)^2}$$

を計算せよ.

(埼玉大 2014) (m20141408)

**0.127** 次の関数を微分せよ.

$$y = \log(\cos e^x)$$

(埼玉大 2015) (m20151401)

0.128 次の関数の偏導関数  $\frac{\partial f}{\partial x}$  および  $\frac{\partial f}{\partial y}$  を求めよ.

$$f(x, y) = \cos(xy) \sin y$$

(埼玉大 2015) (m20151402)

0.129 次の定積分を求めよ.  $\int_0^1 \frac{3x}{x^2+1} dx$

(埼玉大 2015) (m20151403)

0.130 次の重積分を求めよ. ただし,  $0 \leq x \leq 1, x \leq y \leq \sqrt{x}$  で囲まれる領域を  $D$  とする.

$$\iint_D (2x + y) dx dy$$

(埼玉大 2015) (m20151404)

0.131 行列  $A$  が次式であたえられるものとして以下の間に答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 2 \\ 1 & 1 & 2 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列  $A$  の逆行列を求めよ.
- (2) 行列  $A$  の固有値を求めよ.
- (3) 各固有値に対する固有ベクトル  $v_1, v_2, v_3$  を求めよ.

(埼玉大 2015) (m20151405)

0.132 原点  $O$  と 2 点  $A(1, 4, 2), B(-2, 2, 3)$  において,  $\overrightarrow{OA} = \mathbf{a}, \overrightarrow{OB} = \mathbf{b}$  として以下の間に答えよ.

- (1)  $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$  の成分を求めよ.
- (2) 原点  $O$ , 点  $A$  および点  $B$  で作られる三角形の面積を求めよ.
- (3) ベクトル  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  の両方に垂直な単位ベクトル  $\mathbf{n}$  を求めよ.

(埼玉大 2015) (m20151406)

0.133 以下の微分方程式の一般解を求めよ.

- (1)  $\frac{dy}{dx} - 2xy = 0$
- (2)  $x \left( \frac{dy}{dx} + \sin x \right) + y = 0$
- (3)  $3 \frac{d^2y}{dx^2} + 5 \frac{dy}{dx} + 2y = 0$
- (4)  $\frac{d^2y}{dx^2} + 2 \frac{dy}{dx} + y - x - 3 = 0$

(埼玉大 2015) (m20151407)

0.134 次の関数を  $x$  について微分せよ.

$$(1) y = \tan \left( \frac{1}{1+x^2} \right) \quad (2) y = x^{(e^{3x})}$$

(埼玉大 2016) (m20161401)

0.135 次の不定積分を求めよ.

$$\int \frac{2x}{x^2 - 2x + 3} dx$$

(埼玉大 2016) (m20161402)

0.136 次の2重積分を求めよ。ただし、3つの直線  $x = 0$ ,  $y = 2$ ,  $-2x + y = 0$  で囲まれた領域を  $D$  とする。

$$\iint_D \frac{1}{(x+y+1)^2} dx dy$$

(埼玉大 2016) (m20161403)

0.137  $xyz$  空間のベクトル  $\mathbf{A} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$  に対する線形変換について、以下の問に答えよ。

(1)  $\mathbf{A}$  を  $y$  軸に対して対称移動させるような  $3 \times 3$  行列を導出せよ。

(2)  $\mathbf{A}$  を  $z$  軸のまわりに角  $\theta$  だけ回転させるような  $3 \times 3$  行列を導出せよ。

(埼玉大 2016) (m20161404)

0.138  $i, j, k$  を基本ベクトルとする  $xyz$  空間上のベクトル場  $\mathbf{A} = xi + 2yj + 3zk$  の面積分  $\int_S \mathbf{A} \cdot dS$  を、発散定理を用いて求めよ。 $S$  は原点を中心とする半径1の球面とする。

(埼玉大 2016) (m20161405)

0.139  $xyz$  空間上のスカラー場  $\varphi = x - \frac{2}{3}yz$  の曲線  $C$  に沿う線積分  $\int_C \varphi ds$  を求めよ。 $C$  は原点  $O$  から  $(3, 3, 3)$  に至る線分とする。

(埼玉大 2016) (m20161406)

0.140 以下の微分方程式を解け。

(1)  $2 \frac{dy}{dx} = \frac{y}{\tan x}$

(2)  $x \frac{dy}{dx} - 2y = x^3 e^x$

(3)  $\frac{d^2 y}{dx^2} + y = \cos x$

(4)  $\frac{d^4 y}{dx^4} - 8 \frac{d^2 y}{dx^2} + 16y = x^2$

(埼玉大 2016) (m20161407)

0.141 次の関数を  $x$  について微分せよ。

(1)  $y = \frac{\sin 3x}{1 + \cos 3x}$

(2)  $y = e^{\frac{x}{\tan x}}$

(埼玉大 2017) (m20171401)

0.142 次の不定積分を求めよ。  $\int \frac{-x^2 + 10}{(x+1)(x-2)^2} dx$

(埼玉大 2017) (m20171402)

0.143 次の2重積分を求めよ。ただし、放物線  $y = x^2$  と直線  $y - x - 2 = 0$  で囲まれた領域を  $D$  とする。

$$\iint_D xy dx dy$$

(埼玉大 2017) (m20171403)

0.144 以下のベクトルの各組は一次独立か、もしくは一次従属か答えよ。

(1)  $\mathbf{x}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}$ ,  $\mathbf{x}_2 = \begin{bmatrix} 3 \\ 4 \end{bmatrix}$

(2)  $\mathbf{x}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{bmatrix}$ ,  $\mathbf{x}_2 = \begin{bmatrix} 4 \\ 5 \\ 6 \end{bmatrix}$ ,  $\mathbf{x}_3 = \begin{bmatrix} 7 \\ 8 \\ 9 \end{bmatrix}$

(3)  $\mathbf{x}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{bmatrix}$ ,  $\mathbf{x}_2 = \begin{bmatrix} 3 \\ 2 \\ 1 \end{bmatrix}$ ,  $\mathbf{x}_3 = \begin{bmatrix} 1 \\ -2 \\ 3 \end{bmatrix}$



0.145 行列  $A$  が次式で与えられるものとして以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 0.7 & 0.3 & 0 \\ 0 & 0.4 & 0.6 \\ 0.3 & 0.3 & 0.4 \end{bmatrix}$$

- (1) 行列  $A$  の固有値を求めよ.
- (2) 行列  $A$  の固有ベクトルを求めよ.
- (3) 行列  $A$  は対角化可能かどうか判定せよ. 可能であれば, 対角化せよ.

(埼玉大 2017) (m20171405)

0.146 以下の微分方程式を解け.

$$\begin{array}{ll} (1) \frac{dy}{dx} = e^{2y-x} & (2) 2xy \frac{dy}{dx} = y^2 - 4x^2 \\ (3) \frac{d^2y}{dx^2} - 2 \frac{dy}{dx} + y = 4e^x & (4) \sin x \frac{dy}{dx} - 2y \cos x = 2x \sin^3 x \end{array}$$

(埼玉大 2017) (m20171406)

0.147 次の関数を積分せよ.

$$(1) \int e^{kx} x^3 dx \quad (\text{ただし, } k \text{ は, } 0 \text{ でない定数})$$

(埼玉大 2018) (m20181401)

0.148 次の関数を積分せよ.

$$(2) \int_0^1 \int_0^y \frac{x}{1+y^2} dx dy$$

(埼玉大 2018) (m20181402)

0.149 次の関数を微分せよ.

$$y = \frac{x+1}{(x+2)^2(x+3)^3}$$

(埼玉大 2018) (m20181403)

0.150 (1) 関数  $x \cos x$ ,  $\log(1+3x)$  をそれぞれ 3 次の項までマクローリン展開せよ.

$$(2) (1) \text{ の結果を用いて極限 } \lim_{x \rightarrow 0} \left\{ \frac{1}{\log(1+3x)} - \frac{1}{3x \cos x} \right\} \text{ を求めよ.}$$

(埼玉大 2018) (m20181404)

0.151 行列  $A$  が次式で与えられるものとして以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 2 & 0 & 2 \\ 1 & 1 & 2 \\ 1 & -1 & 3 \end{bmatrix}$$

- (1) 行列  $A$  の固有値を求めよ.
- (2) 各固有値に対応する固有ベクトル  $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3$  を求めよ.
- (3) (2) で求めた固有ベクトルを列ベクトルとする行列  $V = [\mathbf{v}_1 \ \mathbf{v}_2 \ \mathbf{v}_3]$  の逆行列  $V^{-1}$  を求めよ.
- (4)  $\hat{A} = V^{-1}AV$  を求めよ.
- (5)  $\hat{A}^n$  を求めよ. ただし,  $n$  は任意の自然数  $(1, 2, \dots)$  とする.
- (6) (5) の結果を利用して  $A^n$  を求めよ.

(埼玉大 2018) (m20181405)

**0.152** 以下の微分方程式の一般解を求めよ.

(1)  $1 - (\cos x)^2 \frac{dy}{dx} = 0$

(2)  $x \frac{dy}{dx} = x^2 + y$

(3)  $x^2 \left( \frac{dy}{dx} \right)^2 + 5xy \frac{dy}{dx} + 6y^2 = 0$

(4)  $\frac{d^2y}{dx^2} + 5 \frac{dy}{dx} + 4y = x^3 + 1$

(埼玉大 2018) (m20181406)

**0.153** 次の関数について以下の問いに答えよ.

$$f(x) = \frac{1}{2} \log \left| \frac{x-1}{x+1} \right|$$

(1)  $f'(x)g(x) = 1$  を満たす  $g(x)$  を求めよ.

(2)  $f'(x)g(x) = 1$  に積の微分に関するライプニッツの公式を適用して, 次の漸化式が成り立つことを示せ.

$$(x^2 - 1)f^{(n+1)}(x) + 2nx f^{(n)}(x) + n(n-1)f^{(n-1)}(x) = 0 \quad (n \geq 1)$$

(埼玉大 2019) (m20191401)

**0.154** 次の関数の  $x$  に関する偏導関数  $z_x$  を求めよ.

$$z = \log \sqrt{x^2 + y^2}$$

(埼玉大 2019) (m20191402)

**0.155** 次の不定積分を求めよ.  $I = \int \frac{1}{\sin x} dx$

(埼玉大 2019) (m20191403)

**0.156** 半径  $a$  の円の面積を二重積分を用いて求めよ.

ただし,  $D = \{(x, y) \mid x^2 + y^2 \leq a^2\}$  とする.

(埼玉大 2019) (m20191404)

**0.157** 次の3つのベクトル  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$  について考える.

$$\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \\ 2 \end{pmatrix}, \mathbf{b} = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix}, \mathbf{c} = \begin{pmatrix} x \\ 5 \\ 3 \end{pmatrix}$$

(1)  $\mathbf{a}$  と  $\mathbf{b}$  のなす角  $\theta$  とするとき  $\cos \theta$  を求めよ.

(2)  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$  が一次従属となるように  $x$  を求めよ.

(埼玉大 2019) (m20191405)

**0.158** 2つの数列  $x_n, y_n$  の間に

$$x_n = x_{n-1} + 4y_{n-1}$$

$$y_n = 2x_{n-1} + 3y_{n-1}$$

なる関係がある. ただし,  $n$  は自然数とし,  $x_0 = -2, y_0 = 2$  とする.

(1)  $x_1, y_1$  を求めよ.

(2)  $A = \begin{pmatrix} 1 & 4 \\ 2 & 3 \end{pmatrix}$  とするとき,  $\begin{pmatrix} x_2 \\ y_2 \end{pmatrix} = A^2 \begin{pmatrix} x_0 \\ y_0 \end{pmatrix}$  となることを示せ.

(3)  $x_n, y_n$  を  $n$  を使って表せ.

(埼玉大 2019) (m20191406)

0.159 次の微分方程式の一般解を求めよ.

$$(1) \frac{dy}{dx} = (2y + 1)^2 x e^{-x}$$

$$(2) \frac{x}{y} \frac{dy}{dx} - \frac{\sqrt{x^2 + y^2}}{y} - 1 = 0$$

$$(3) \left(\frac{dy}{dx}\right)^2 + 2 \sin x \frac{dy}{dx} - \frac{1}{2} \cos 2x = 0$$

(埼玉大 2019) (m20191407)

0.160 次の連立方程式の一般解を求めよ.

$$\begin{cases} \frac{dx}{dt} = -7x + y \\ \frac{dy}{dt} = -2x - 5y \end{cases}$$

(埼玉大 2019) (m20191408)